



(78) おサイフケータイ普及にはまだ時間

野村総研(上海)咨询有限公司

第3世代(3G)携帯電話を使ったサービスの本格化に向け、ユーザーを囲い込むための重要な手段として、モバイル決済サービス(おサイフケータイ)が通信事業者に重視されている。2009年に入り、各社は相次いで同サービスのテスト運営を始めた。

調査会社「易観国際」の調査によると、携帯電話による決済市場は08年に50.1億元に達し、前年比で26%増加したという。この市場を獲得し、ユーザーを囲い込むため、各キャリアとも力を入れている。

現在は技術面が先行している状況にあり、安全面の不安やインフラの未整備など、消費者にとって現実的には不便な部分も確かに存在している。中国消費者の習慣を変え、おサイフケータイが普及していくには、まだ時間がかかるだろう。

◇交通カード機能を搭載=中国聯通

中国聯通(チャイナ・ユニコム)は4月、近距離通信(NFC)技術を利用した「NFC交通カード携帯」を上海でテスト販売した。交通カード機能搭載の専用携帯端末に料金をチャージすることで、バス・地下鉄・タクシーを利用できる。POS(販売時点情報管理)機などとの間で非接触の無線通信が行えるよう、RFID(ICタグ)を端末に搭載している。

各キャリアは2G時代からNFCを使ったさまざまな情報システムをテストしてきたが、一般的な利用はされてこなかった。中国では、実名で登録されていないプリペイド契約の携帯電話が多いことに加え、NFC対応端末も限られていたためだ。

3G時代を迎え、実名での契約の普及が予想されることから、NFCも広まっていくことが期待できるだろう。交通カード機能だけを現在は提供しているが、今後は銀行と提携し、利用範囲を広げる計画である。

◇決済口座が必要=中国電信

中国電信(チャイナ・テレコム)の3Gサービス「天翼」は、将来的に銀行口座とつなげ、入金・送金などの金融サービスやPOS機での決済サービスまで提供する計画である。現在は、ショートメッセージやWAPと呼ばれる携帯向けのインターネット技術を使った決済サービスを提供するにとどまっている。決済プラットフォーム「付費宝」の口座を持つことが前提で、その口座に携帯番号を登録し、ショートメッセージかWAPサイトを通じて中国電信の利用料金や光熱費などを支払うことができる。

◇SIMカードに通信機能=中国移動

中国移動(チャイナ・モバイル)も2G時代から、モバイル決済サービスの一部をスタートさせている。前述のように、NFCが今まで中国で広く利用されなかったのは、NFCを搭載している端末でしか利用できないことが理由の一つである。

この障壁を取り除くことができるとして、中国移動が新たにテストを行った「RF-SIM」が注目されている。これまでは携帯電話本体にNFCを搭載してきたのに対して、契約者識別モジュール(SIM)にNFCチップやアンテナなどを全て搭載しているのが特徴である。端末を変えてもSIMカードはそのまま使えるため、再登録や移行の手続きなども必要ない。(コンサルタント 管小鴿)